

【助成事業の名称:「明治町商店街五日市イベント事業」】

## ポイント

### 医商連携を基軸に地域社会への貢献活動を推進

かつて石炭産業で栄えた直方市の駅前商店街。近隣への総合病院の移転を契機に、若手組合員が「明治医新」と称して医療との連携による高齢化社会に向けた街づくりをスタートさせた。毎月恒例の「直方五日市」に合わせた「健康講座」も定着し、地元の高取焼を使った「大茶会」や、SNS・FM局での情報発信で新たな街の姿を伝え、文字どおり“維新”に向けた活動を展開している。

#### 商店街情報

所在地:福岡県直方市古町17-9  
 地域の人口:56,625人 27,220世帯  
 (直方市 2019年12月31日現在)  
 商店街の類型:地域型商店街  
 組合員数:47人  
 店舗数:47店舗(主な業種構成:飲・食料品、衣料品、  
 医院、理・美容 等)  
 TEL/ FAX:0949-22-0418  
 URL:  
<https://ja-jp.facebook.com/meijimachi.shoutengai/>



商店街の風景

## 商店街の概要と近年の環境変化

福岡市から50km、北九州市とのほぼ中間に位置する直方市。古くは、福岡藩の支藩である東蓮寺藩(後に直方藩)の城下町として形成され、市内を流れる遠賀川の水運と長崎街道の陸運により物流の拠点として商業が発展してきた。明治時代以降は、全国でも有数の産炭地である筑豊炭田を控え、石炭産業の隆盛とともに石炭輸送の要衝として鉄道網と市街地の整備が進み、筑豊三都の一つとして名を馳せた。

1910年に直方駅の駅舎が完成すると駅前に商店の集積が始まり、当商店街を含めた4商店街が隣接して中心市街地が形成され、筑豊地域の消費経済の中心的な役割を果たしてきた。しかし、1960年頃から石炭から石油へのエネルギー転換が進み、筑豊地域の炭鉱は相次いで閉山。商店街を取り巻く環境も大きく変化した。市内の商店街では、地域の活性化策として、協働で毎月5日に大売り出しを行う「直方五日市」を1959年からスタートさせ、現在も継続して開催している。

当商店街は、直方駅東口から徒歩2分。三角屋根のアーケード内には約200mにわたって生鮮食料品、衣料品、飲食店など約50店が軒を連ね、「はいから通り」の愛称でも知られている。カラー舗装で整備された街区は、現代的な店舗へと徐々に模様替えしつつあるが、街並みには懐かしい昭和の面影も残る。現在の店主の多くは3代目へと世代交代が進み、商店街の理事11名中、30～40代の若手理事が過半数を占め、持ち前の機動力を生かして新たな街づくりにチャレンジしている。

一方、昨今は定住人口の減少や郊外型大型商業施設の進出等で、空き店舗の増加や通行量の減少が進み、中心市街地の空洞化が課題となっている。そこで、官民一体となって中心部における都市機能の集積に取り組んでおり、その一環として直方病院の誘致や商店街内に



街区の様子



街路(カラー舗装)

バリアフリートイレ・休憩所等を整備し、人が行きかう街づくりを目指してきた。最近、マンション建設等で周辺人口は増加しつつあるが、商店街の日常的な利用までには至っておらず、新規顧客層の開拓が急がれていた。

## 助成事業の概要とその成果

地域に根付いている「直方五日市」の定期開催と並行して、子育て世代に商店街の存在を知ってもらうため、若手店主が中心となり、子連れで商店街を楽しんでもらえる新規イベントを企画した。実施した主な内容は以下のとおりである。

### 【平成25年度実施事業：「明治町商店街五日市イベント事業」】

#### ①「明治町商店街七夕イベント」の開催

7月には、市内の幼稚園や保育園の児童に願い事を短冊に書いてもらい、街区に設置した笹に飾った。これを見に来た方を対象とする抽選会と似顔絵プレゼントの企画を加えたことで多くの地元住民が来街。似顔絵の当選者は後日、受け取りに来てもらい、商店街に再度足を運んでもらうきっかけづくりとした。

#### ②「明治町子ども商店街」の開催

8月には、商店街の店舗で小学生を対象とした職業体験イベントを開催。企画に際しては、若手店主が先進商店街を視察して事業スキームを検討した。事前の応募で定員を大幅に上回る申し込みがあったが、花屋や洋服店などの小売業に加え、美容院などのサービス業も参加協力してもらい多彩な職業体験を用意することができた。1コマ45分の体験を午前・午後の2回実施し、参加した子供達は報酬としてイベント通貨を受け取り、遊具や縁日コーナーで利用してもらった。また、保護者も同伴で足を運んでもらったので、お店の認知度向上にも役立った。

#### ③「直方を食べよう野菜市」の開催

9月には、「直方五日市」の開催日に合わせ、JAの協力で地産地消をテーマに新鮮な地場野菜の店頭販売を実施。1,000名を超える来場者がある「直方五日市」の集客効果もあって、2時間足らずで完売するなど好評であった。

#### ④「ニャトソンと謎解きツアー」の開催

10月には、謎解きツアーを開催。各店主から店の商品や店にまつわるクイズを出題してもらい、これを解きながら商店街を歩かまわるイベント。直方市のイメージキャラクター「ニャトソン」の日記をヒントに150名近い子供達と保護者がお店巡りと謎解きを楽しんだ。子供達には地域の歴史や文化、商店街などを知るよい機会となり、生活エリアに対する関心を高めることに繋がった。

#### ⑤「親子でスポーツイベント」の開催

11月には、近隣に直方病院を誘致したことを契機に、医商連携推進の一環として、スポーツ体験イベントを開催。街の通りで身体を動かして健康維持に役立ててらおうと三輪車、玉入れ、パターゴルフ等を用意。地域住民に街で運動を愉しんでもらった。

#### ⑥「オーナーズフリーマーケット」の開催

12月には、年末の大売り出し企画として、店主による掘り出し品などを集めたフリーマーケットを開催。アトラクションとして、大道芸などのパフォーマーを招聘し、子供から大人まで楽しめる企画とした。



直方五日市イベント



明治町子ども商店街



ニャトソンと謎解きツアー



親子でスポーツイベント



オーナーズフリーマーケット



＜助成事業による成果等＞

恒例の「直方五日市」の開催を軸に、毎月のように子供にスポットを当てたイベントを企画したことで新規顧客の掘り起こしに繋がり、これらの助成事業を企画・運営した若手店主達にとっても大きな自信となった。さらに、地元総合病院との新たな連携の形が見えてきたことで、高齢化社会への対応に加え、文化や伝統の継承、子育てなど地域社会における課題解決の担い手としての商店街の在り方を見直す大きな契機となった。

助成事業以降の商店街活動

昨今は、会員店舗の廃業や近隣スーパーの撤退などにより、地域生活者の日常的な買い物の充足が困難になりつつある。こうした中で商店街では、高齢化が進む地域住民の要望に応え、直方五日市開催時の無料送迎バス、無料臨時列車の運行による高齢者の足の確保や、地域を挙げた健康づくり等を積極的に推進している。

①「直方五日市」の開催

本年で60周年を迎え、地域に根付いたイベントとなっており、市内外から訪れる買い物客で大変な賑わいとなる。当日は直方駅から近郊各部への無料臨時バスの運行や、筑豊鉄道でも無料列車を運行するなど、地域を挙げた取り組みとなっている。また運営に当たっては、商店街が連携して出店調整や広報などに取り組んでいるほか、商店街の不足業種を補完するため、業者に空き店舗に臨時出店してもらい、組合員店とともに地域活性化の起爆イベントとして賑わい向上に努めている。



五日市無料送迎バス

②「わくわく健康講座」の開催

「直方五日市」の開催時に空き店舗を活用し、直方病院の院長など医療関係者を招聘して月毎にテーマを設定した健康講座を開催している。薬剤師による薬の相談コーナーもあり、健康志向の高齢者を中心に毎回満席となるほどの盛況で、80回を迎えている。直方病院の職員や患者などの商店街の認知度も高まり、買い物利用にも繋がっている。



明治町商店街七夕イベント

③「七夕イベント」の開催

毎年7月、地元幼稚園や保育園など11団体の協力により、子供達に彦星や織姫などの様々な形や色の短冊に願い事を書いてもらい、商店街のアーケード内に吊り下げる七夕の装飾は今や夏の風物詩として多くの住民に親しまれている。



のおがたわくわくの様子

④「ちくぜんのおがた高取焼大茶会」の開催

商店街の有志により、空き店舗や路上を活用して12程の茶席を設け、400年の伝統を誇る高取焼の茶器を使用した茶会を開催。黒田長政の時代から続く高取焼発祥の地であることを発信している。当日は、茶道4流派や地元高校の茶道部などの協力で、席によって異なる茶菓子やお茶を和服姿でもてなすほか、福岡県無形民俗文化財の踊りなども披露。県内外から訪れた7,000人近い来場者に地域の文化や歴史に触れてもらい、普段の商店街とは違った和やかな雰囲気を楽しんでもらっている。



ちくぜんのおがた 高取焼大茶会



わくわく健康講座

## 自治体による活性化支援等

### 直方市

石炭から石油へのエネルギー転換に伴う産業基盤の変化で、昭和60年をピークに直方市の人口は減少傾向となり、さらに郊外型商業施設の進出等により市内の商業環境は厳しさを増している。市では、中心市街地における都市機能の強化を図るため2009年から2014年にかけて中心市街地活性化基本計画を推進。さらに、2016年に「成長力のある人材を育成し、賑わいを創出する産業振興を目指す」という基本方針による産業振興アクションプランを策定し、街の活力の創造等に力を入れている。商店街や個店などに対しては、以下のような振興策により、買い物の場としての機能強化等を支援している。

#### ①直方市商業振興対策事業費補助金

集客イベント、顧客導入促進事業、空き店舗解消に資する事業、来街者の安全性の向上に資する事業等、商店街組織が実施する事業に対し、補助対象経費の50%、20万円を上限として助成を実施している。

#### ②直方市商店リフォーム補助金

商店の内外装及び付帯設備の改修工事等に要する経費で、補助対象経費の50%、50万円を上限に助成を実施。空き店舗を新たに賃借又は購入した事業者等も補助対象者としており、商店街における個店の魅力向上をサポートしている。

#### ③のおがた わくわーくの実施

直方市産業振興アクションプランのリーディングプロジェクトとして、夏休み期間中、小学生など対象に市内20箇所ほどの事業所で無料の仕事体験を実施するもの。なかでも商店街関係は、お菓子のラッピング体験、饅頭作り体験、八百屋さん体験など、子供達が楽しめる企画で、人気の高い体験コースとなっている。

## 商店街の今後の戦略

### 笑顔の生まれる商店街を目指す

助成事業の実施で、これまでは年齢層の高い世代が多かったが、若い世代がイベントに参加してくれて来街のきっかけとなった。特に、空き店舗を活用した健康講座や高取焼の大茶会など、地域コミュニティーの創出に向けた取り組みの効果が現れ始めたと考えている。また、近隣に直方病院が移転してきたことで、病院への通院患者やお見舞い客など商店街を利用する人が増えており、恒例の「イキイキ健康講座」も毎回盛況である。次のステップとして、地域生活者の日常の利用に繋げていくためには、輝くお店が集積する商店街にしていきたい。周囲に一定の人口集積があるとはいえ、住民の買い物ニーズや嗜好に合った商売をしていなければ利用してくれない。集客のためにイベントを乱発しても体力を消耗させ、継続が困難な状況に陥る可能性もあるので、「直方五日市」のような起爆剤イベントの集客力で商店街への来街を促し、個店自らがお店の魅力を発信してってもらうことが望ましいと考えている。そのためには、お店の顔である店主がお客様とface to faceで会話をしていくことが魅力を伝えていくための第一歩になるのではないかと。地域生活者のための商店街として、基礎的な役割を十分果たせるまでには時間がかかるかもしれないが、店主の心意気が感じられるような輝くお店を広めていき、“笑顔の生まれる商店街”にしていくことが思い描いているビジョンである。



## 取材を通じて明らかになったこと

街の発展に寄与した基幹産業の衰退は、商店街などの地域経済だけでなく、地域社会にも大きな影響をもたらした。古き良き時代の商店街像を追い求めていても活路を切り拓くことは難しく、未来に向けた街のイメージアップが不可欠であろう。当商店街では、若返りを図り、新しい住民層と同じ世代を中心とする運営体制としたことが大きい。また、地域コミュニティーを軸にした集客プログラムの場合、公益性に加えて収益性をどう確保していくかが課題であるが、まずは、地域に愛される商店街を目指して、幅広い年齢層に対応する「全方位型」地域コミュニティー活動を展開し、生活の質の向上を図っていくことに期待したい。



～ 仕掛け人 ～ 明治町商店街協同組合  
左 小池理事長 右 栗野専務理事